

3 学期始業式

校長 栃倉 和則

みなさん、明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、お一人お一人の益々のご健康と活躍をお祈りいたします。

昨日は成人の日でした。総務省の推計によりますと、成人年齢の引き下げを受け、ことしの元日を新たに成人として迎えた人は、18 歳が 112 万人、19 歳が 113 万人、20 歳が 117 万人とほぼ同数が成人年齢を迎えたとされています。成年年齢が引き下げられて初めての成人の日だったわけですが、式典、つまり成人式の方は「二十歳の集い」などと名前を変えて、二十歳の人のみを対象として行われたようです。18 歳の新成人を対象とするのは 3 つの市と町にとどまったそうです。式場の問題や大学入試への影響、振袖などの経済的負担…このあたりの議論についても少し興味深いところがあるのですが、今日の課題はそこではありません。成人式の目的は、「成人になったことを祝福すると共に、義務や権利を伝え自覚を促すこと」とされますが、その中の「自覚」に関わる部分です。

年末の P T A 広報誌に私の恥ずかしい昔話を書かせていただきました。P T A の広報誌だからと、右から左に保護者の方に渡してしまった人もいるかもしれないので、かいつまんでお話しをさせていただきます。

冬になると思い出す、私のトラウマです。私が 25, 6 の営業マンだったころ、大雪で 30 分ほど遅刻をしたことがあります。大雪が降ったから、仕方がないねという話ではありませんでした。145,000 円の給料から 5,000 円減給されたのです。雪が降っていたのだから早く家をでるべきだったとか、遅刻するとわかった時点でなぜ連絡しなかったのか、とか長々と説教されました・・・もちろんいつもより早く家を出ましたし・・・、当時は携帯電話もなく、公衆電話も長蛇の列、2 時間も電車に閉じ込められていたのでは、何もすることができなかったというわけです。

今だったら、いざとなれば携帯で電車の中からも連絡できますし、そもそも雪が降って電車が遅れ、事故欠勤が認められるだろうし、休暇を取るなどということも可能な場合が多いと思います。しかし、当時、私の会社はそうではありませんでした。そもそも規則というものは、存在する社会によって、それぞれに定められているということを理解しておかなければなりません。

ある人は言います。遅刻は自己責任だと。遅刻してその責任を負うという意味ではそのとおりですが、拡大解釈して、遅刻は権利だ、そしてさらには自由だなどという考え方はいかがなものでしょうか。

時間に厳しい人とは距離を置きたいとか、成果主義に時間は関係ないとかいう人もいます。コロナ禍によるリモートワークの促進は、確実にこの考え方に拍車をかけました。しかし、勘違いしてはいけません。それは限られた世界でのことで、あらゆる世界で通用するわけではありません。みなさんは、遅刻が通用する社会で生きて行くのでしょうか。個々が置かれた立場で考えなければなりません。自由度の高い職業に就く人は、そ

ういうことを声高らかに言うかもしれませんが、そのような人でさえ、テレビの収録には遅刻をしないと言います。

少なくとも相手がいる社会では、遅刻は相手の時間を奪う行為であるとされます。約束の時間があって、相手を待たせるということです。待たされた相手は、その時間を無駄にするわけですから。一般に、学校という社会に学ぶ生徒の立場からは、遅刻に対する認識が甘いと言わざるを得ません。自分一人が教室にいなくても、迷惑をかけているとは思わない。でも実際は、小テストを受けられず平常点が取れなかったり、大切な話を聞くことができないという、本人の損失につながったり、あるいは、先生に後からプリントを貰わなければならなかったり、一人がいないことで授業が変わることもあるのです。自分が損をして、あるいは迷惑をかけていることに気づかない。こういう人は自主的に過ごしているとは言えませんね。人はお互いに影響しあっている。一人の存在もきっと大きなものであるはずです。

そしてもう一つ、遅刻するのは本人ですが、それを評価するのは。他者であることを忘れてはなりません。私の場合は、5,000 円の損をしましたが、あいつは遅刻魔だと人にレッテルを貼られる、授業の取組みが評価されて、単位の修得ができない、進級や卒業について担任の先生や親からとやかく言われる…

自主・自律というのは、人にとやかく言わせない、自分で責任をもつということに違いありません。そのことこそが「自立」につながるのです。それが大人としての自覚なのだと思います。

勉強しないから、勉強しなさいと言われるのでしょう

遅刻するから、遅刻すると言われるのでしょう

嫌なことを言わせなければいいじゃないですか。それが自分で責任を負うということです。そのために、自分で自分を律するというのが自律です。

今日は、説教がましいことを申し上げてしまいましたが、自主自律を是とする、豊多摩の学友にはそこはきちんと押さえていただきたい。また、常識的なことを良しとせず、奇をてらって反対の意見を言うことがカッコいいと思う風潮があるような気がしています。そのような意見に惑わされたりすることなく、むしろ、当たり前のことを当たり前にすることができる人に、地道な努力をコツコツと継続する人になっていただきたい。年頭に当たって、原点に立ち返って、基本に忠実にということをお願いしたいと思います。

3 学期は、次の学年のゼロ学期と言われます。2 年生は 3 年生としての自覚をもって、1 年生は 2 年生としての自覚をもって、行動していただきたい。

新しい年のよきスタートを切ることができますように。

Touch the Sky!